

# 幼保小の連携・接続に関する調査 2022 概要版

令和4年度から始まった文部科学省「幼保小の架け橋プログラム」においては、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて連携・協働し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る重要性が指摘されています。

横浜市では、幼保小の交流や連携、接続期カリキュラム等の実施状況等を把握するため、市内の保育所、幼稚園、認定こども園と、小学校・義務教育学校を対象とした実態調査を毎年実施しています。今後の皆様のお取組の参考にしていただけるよう、概要版を作成しましたので、ぜひご参照ください。

なお、分析も含めた詳細版は、ホームページに掲載しております。併せてご活用ください。

## 調査にご協力いただいた幼児教育施設及び学校数

	令和4年度		
	全体数	提出数	回収率
幼稚園	223	84	38%
認定こども園	64	39	61%
私立保育所	795	481	61%
公立保育所	61	61	100%
小学校・義務教育学校	338	338	100%
合 計	1481	1003	68%

## 調査担当

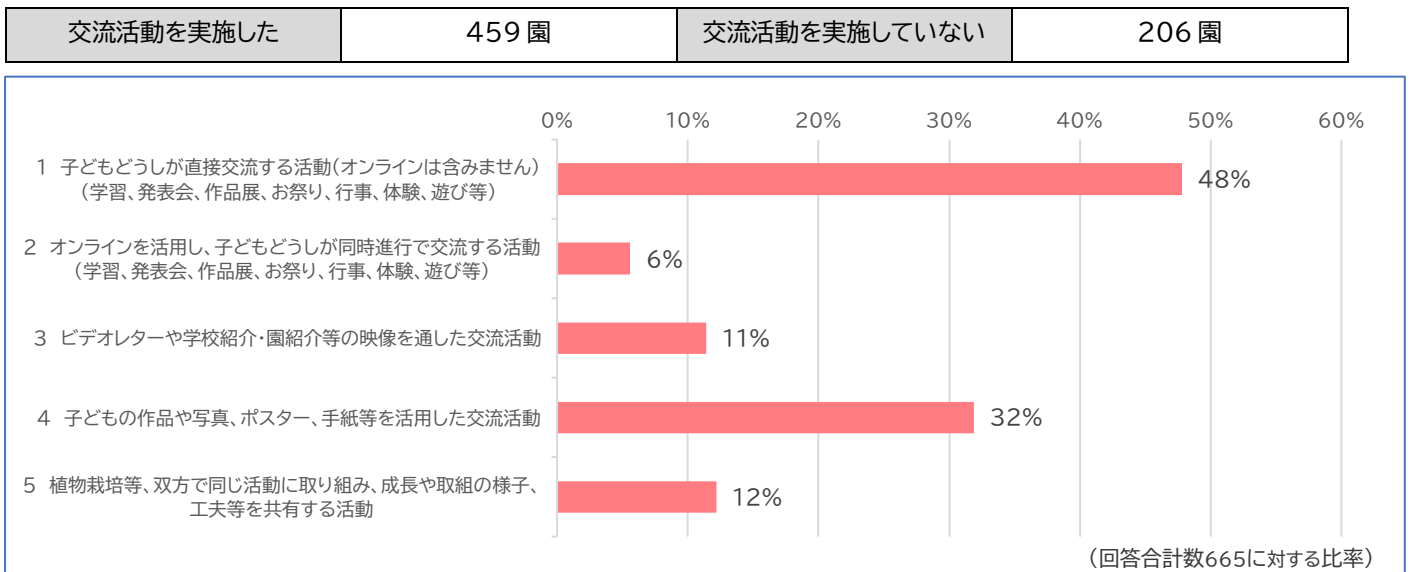
幼稚園・認定こども園・保育所 . . . こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当  
小学校・義務教育学校 . . . 教育委員会事務局 小中学校企画課

## 報告書編集・発行

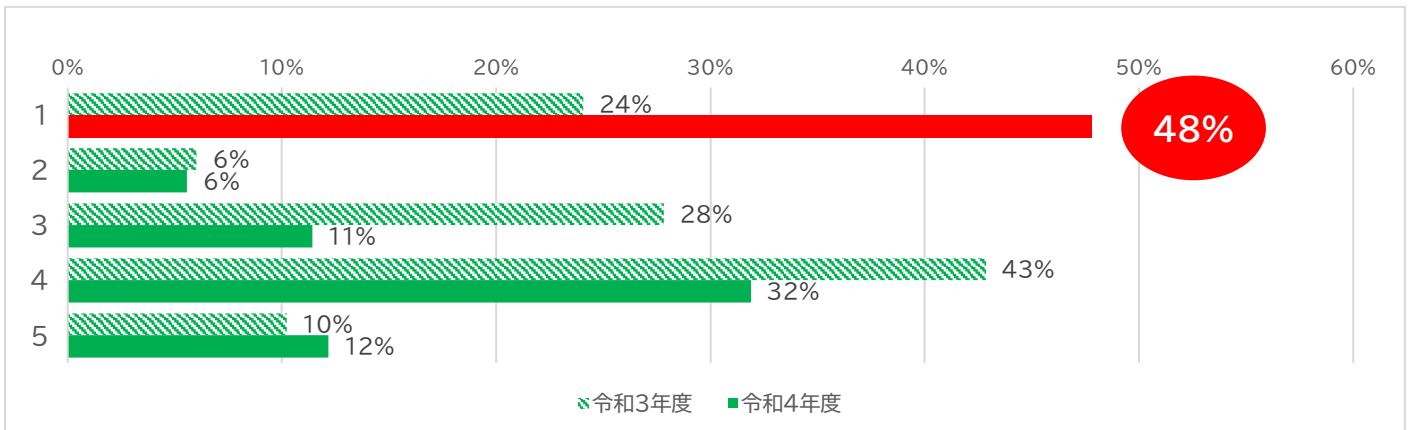
こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当 671-3731

# 保育所・幼稚園・認定こども園編

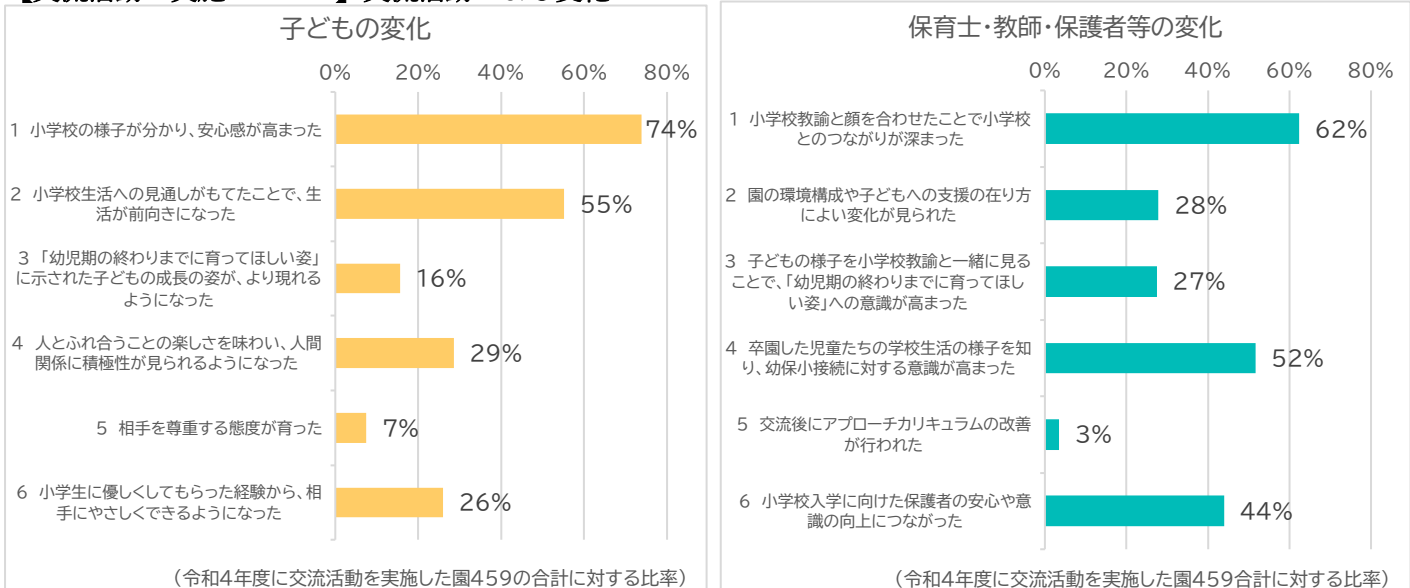
## 【交流活動の実施について】



## 【交流活動の実施について】 昨年比



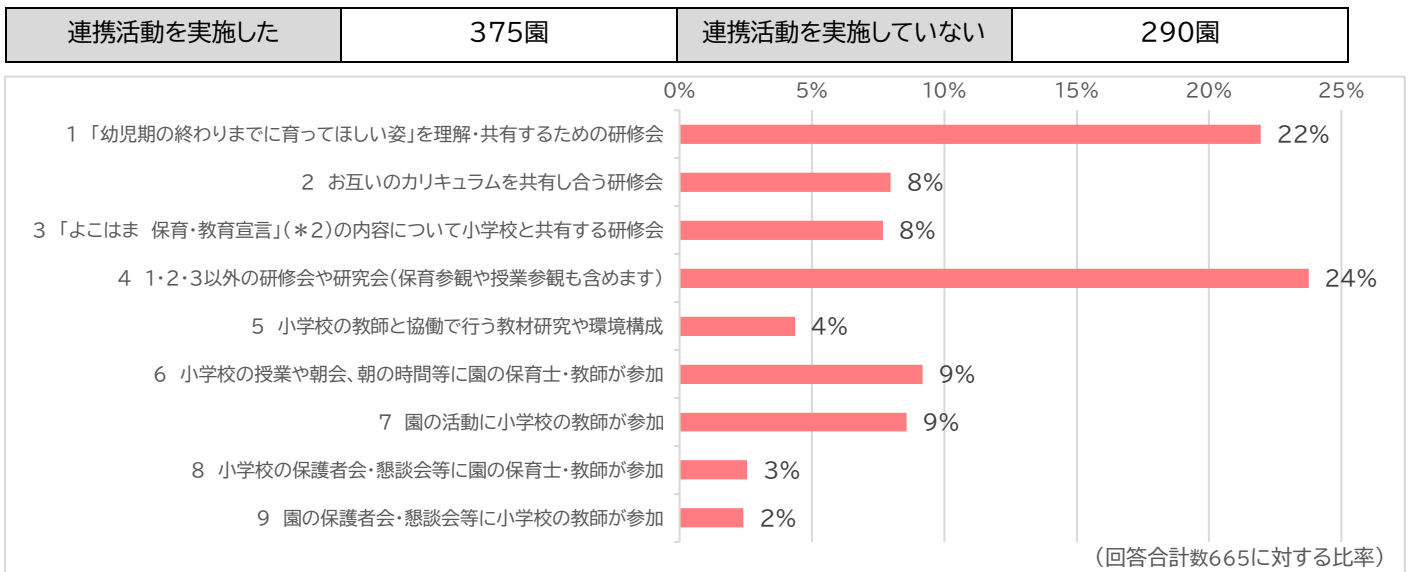
## 【交流活動の実施について】 交流活動による変化



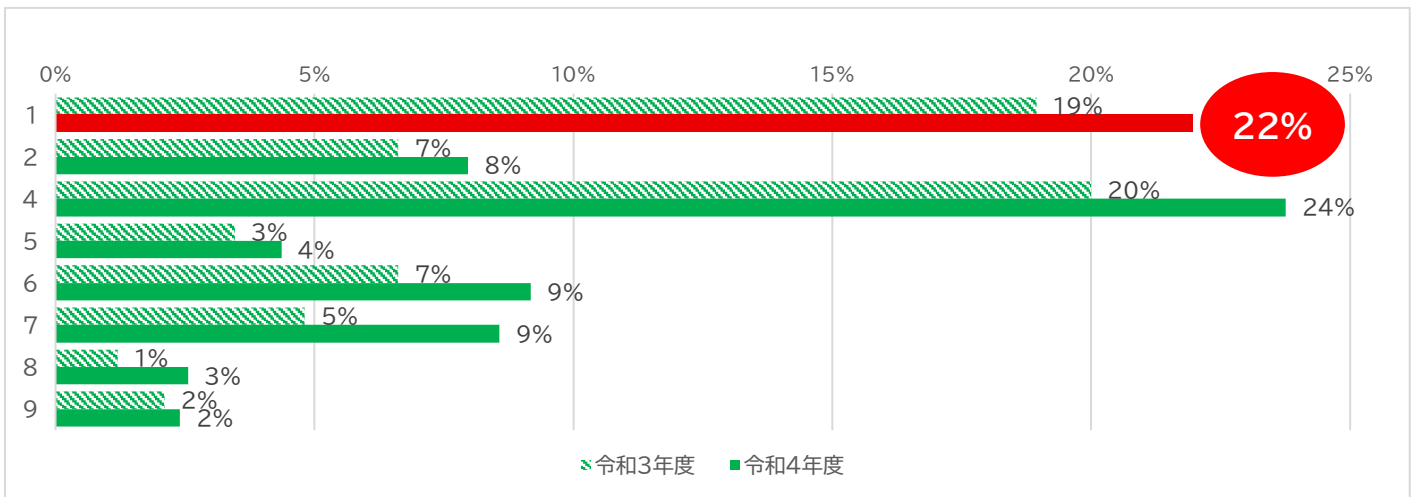
令和3年度と比較して、ビデオレターや手紙等を利用した交流活動の割合は減少した一方で、子どもどうしが直接交流する活動の割合が高まりました。交流活動を経て、多くの園が子どもたちの安心感が高まったと回答しています。また、半数以上が小学校とのつながりの深まりや幼保小接続の意識の高まりを感じています。交流活動を行った44%の園は、保護者の安心や意識の向上につながったと回答しました。

# 保育所・幼稚園・認定こども園編

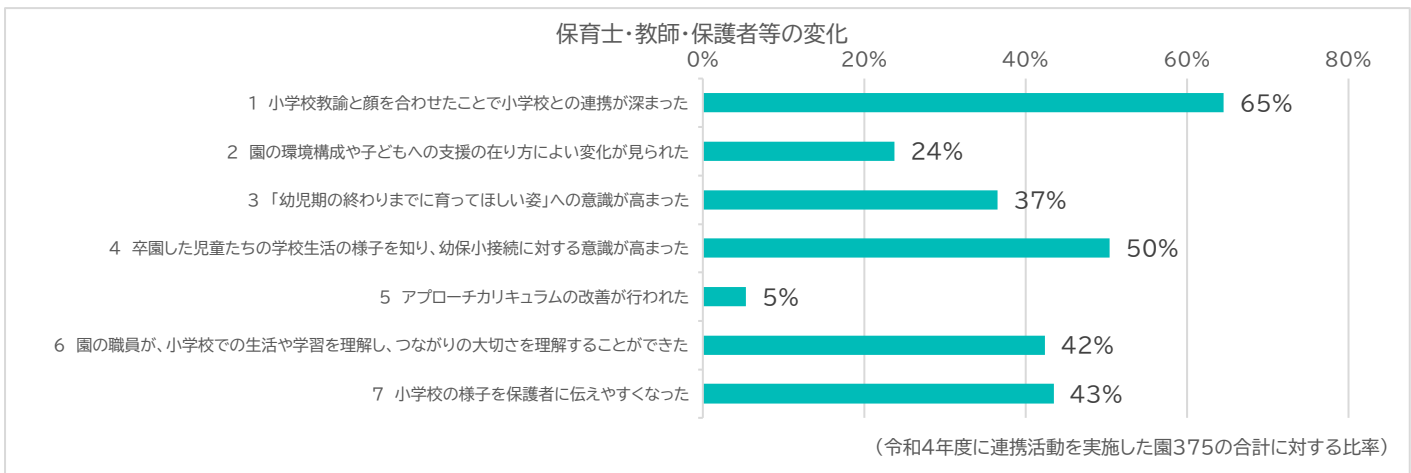
## 【連携活動の実施について】



## 【連携活動の実施について】 昨年比



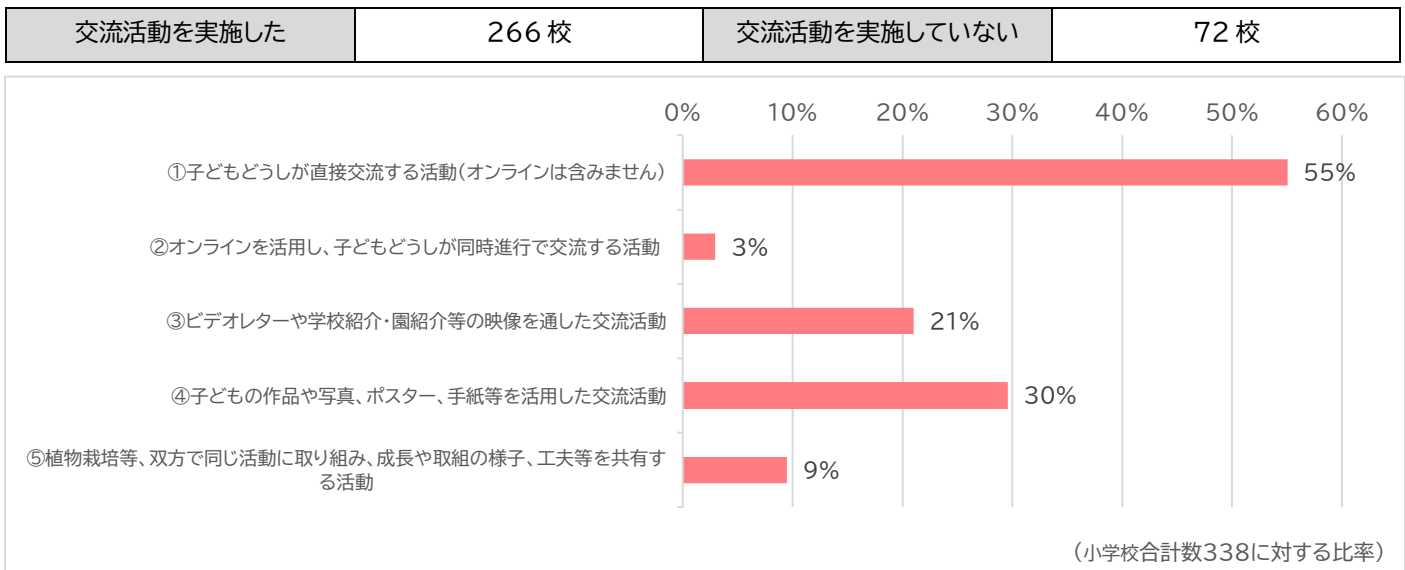
## 【連携活動の実施について】 連携活動による変化



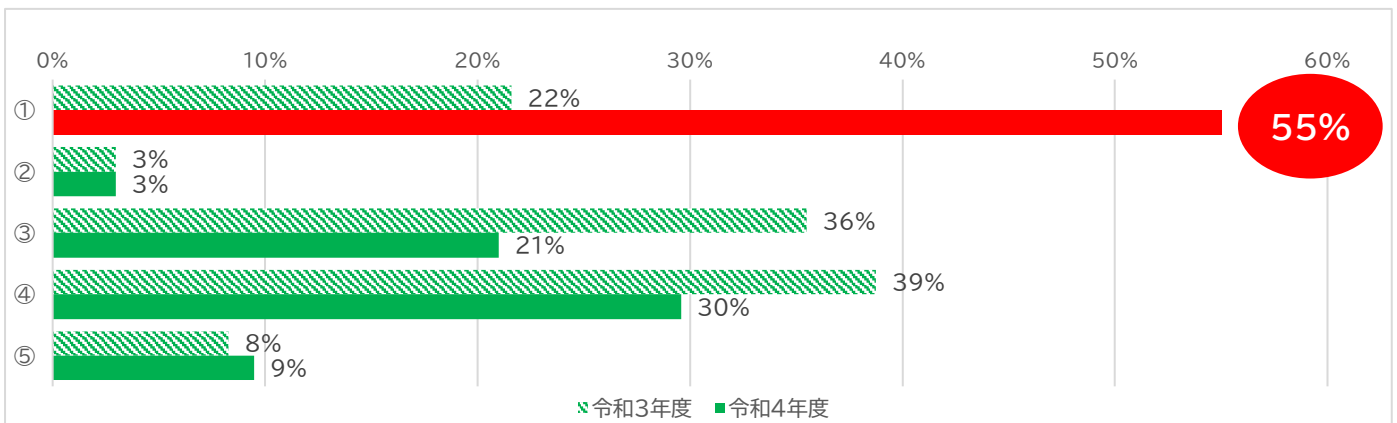
令和3年度と比較して、連携活動を行った園の割合が増加しました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する研修会の実施は全体の22%でした。現時点では低い割合を示していますが、今後大切にしたい取組として注目されています。連携活動を行った園の65%が小学校との連携が深まったと感じています。

## 小学校編

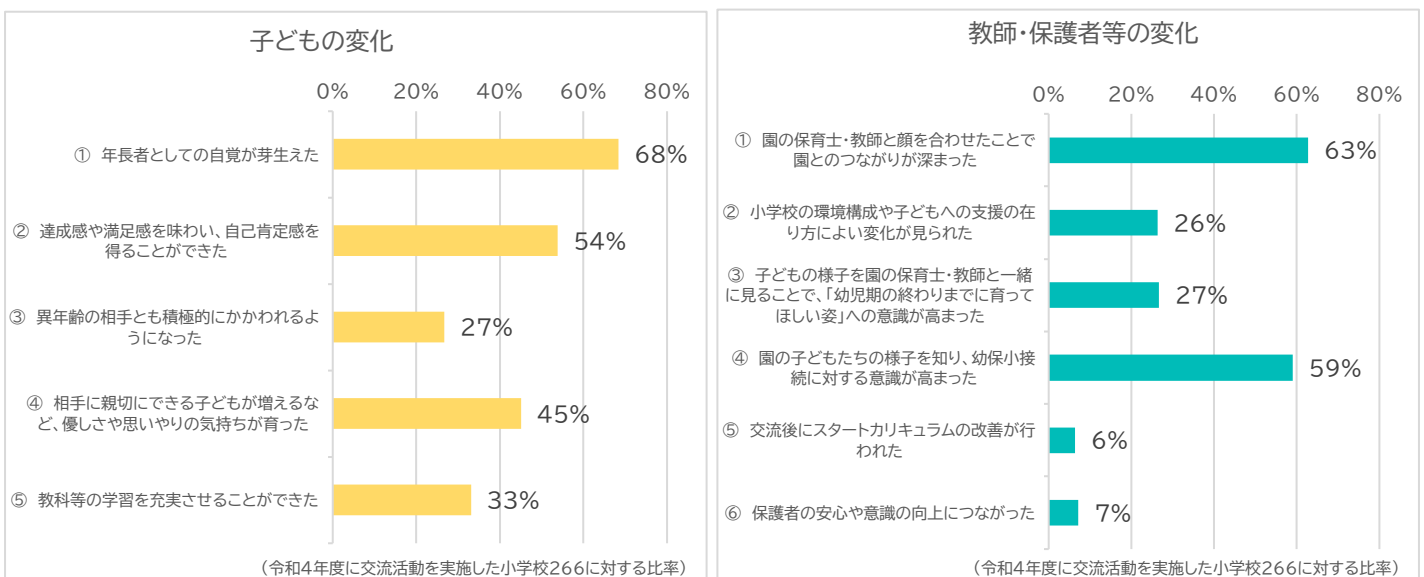
### 【交流活動の実施について】



### 【交流活動の実施について】 昨年比



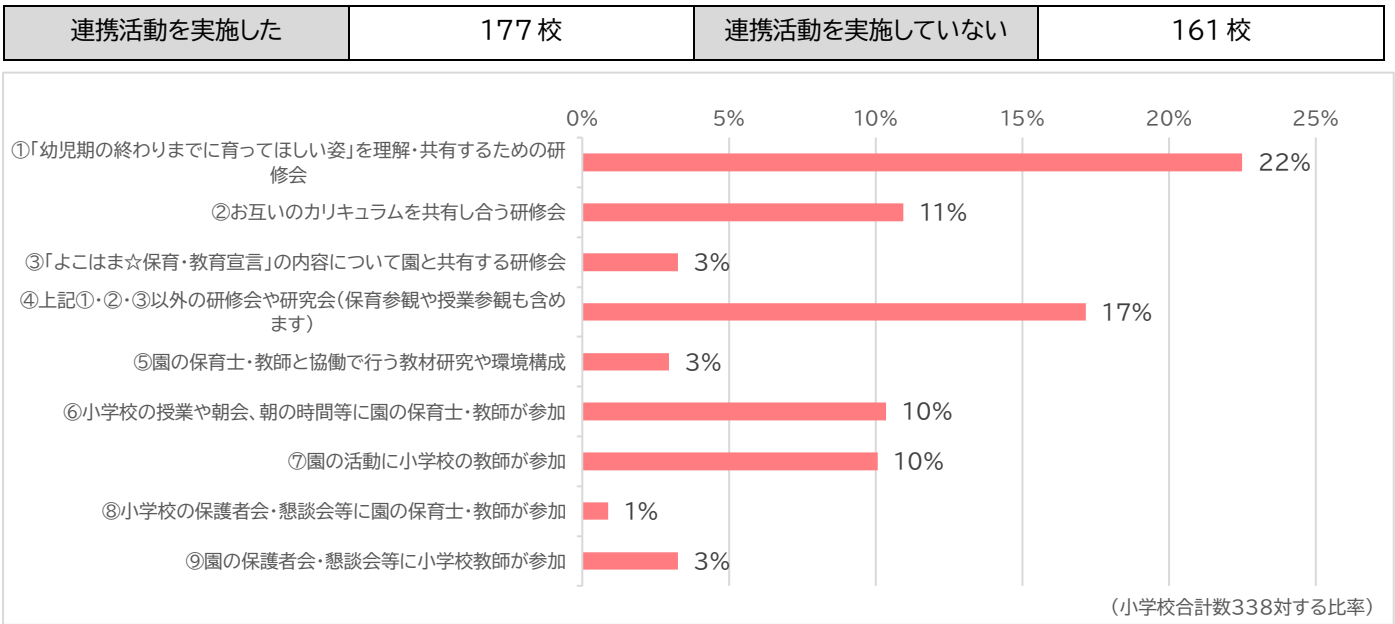
### 【交流活動の実施について】 交流活動による変化



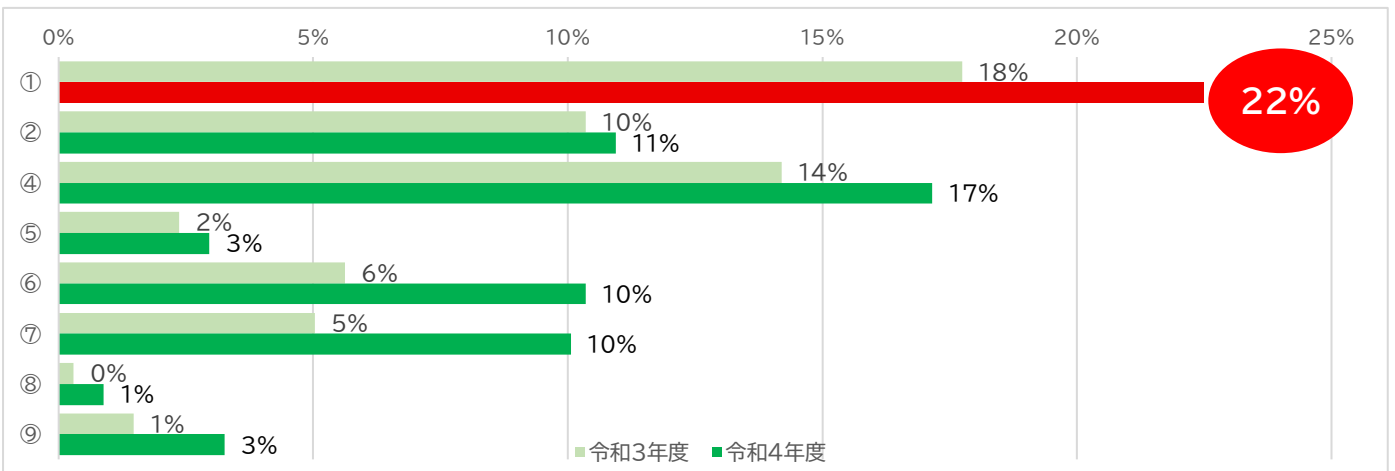
令和3年度と比較して、「子どもどうしが直接交流する活動」の割合が高まっています。保育所・幼稚園・認定こども園と同様に、手紙やビデオレターを利用した活動が減少し、直接交流する活動が大幅に増加しています。交流活動を経てスタートカリキュラムの改善が行われたと回答した園もありました。また今後は、交流活動による教科等の学習を充実させることが期待されています。

## 小学校編

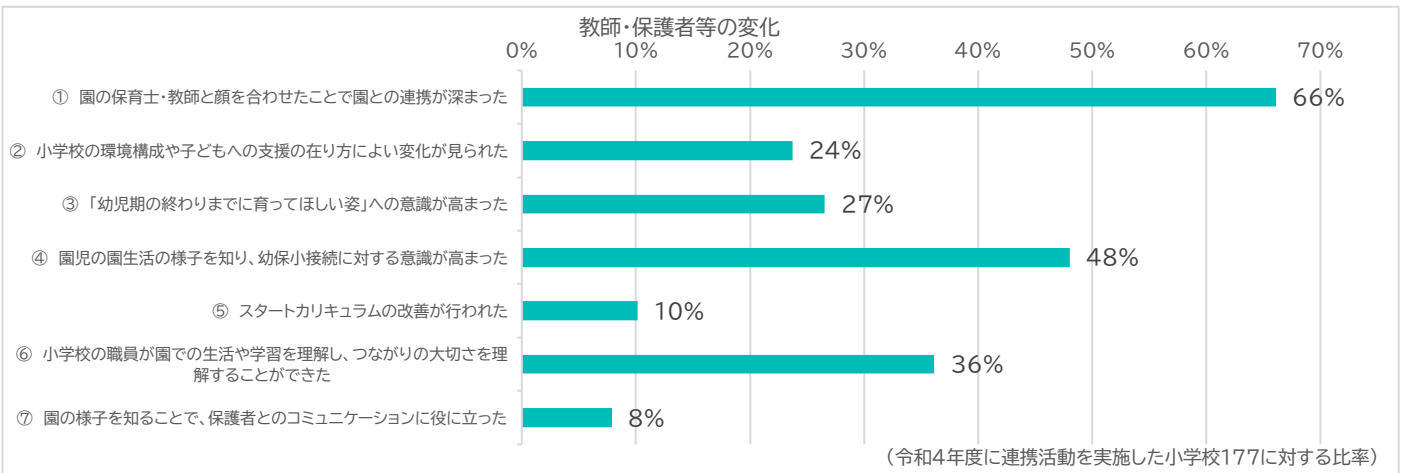
### 【連携活動の実施について】



### 【連携活動の実施について】 昨年比



### 【連携活動の実施について】 連携活動による変化



令和3年度と比較して、連携活動を行った小学校の割合が増加しました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する研修会の実施は全体の22%でした。現時点では低い割合を示していますが、今後大切にしたい取組として注目されています。